

花の宝庫・伊吹山(いぶきやま)の復元・再生を



↑お花畑をピンクに染めるシモツケソウ(バラ科シモツケソウ属)。シモツケソウも鹿によく食べられているという

諦めかけていた伊吹山登山

滋賀県と岐阜県の境にそびえる伊吹山(1377m)は、古代より霊山として人々に崇められ、当然日本百名山に名を連ね、何よりも花の宝庫としてあまりにも有名。

車の運転をやめ、集団登山にはついていけなくなって以来、伊吹山も“遠い山”になってしまった

伊吹山登山バスで

が、7月、テレビで伊吹山とそこに咲く花の紹介番組を見て、もう一度“伊吹山の花々”に会いたくなり、夏期限定で運行されている「伊吹山登山バス」(一日一便)に予約をいれた。

7月29日、JR米原駅前発のバスは11:15予定通り出発。座席はほぼ6割が埋まっている。多くが中高年層。バスは関ヶ原からウネウネと山腹をのぼり、12:30山頂駐車場に到着。

吹き抜ける涼風。酷暑の日常とは別天地

冷房の効いたバスであったが、そのバスから降り立った途端、吹き付ける風に「ああ！涼しい」と声をあげた。酷暑にあえぐ日常とは別天地だ。

ダブルストックで西登山道から頂上を目指す。すぐに異変に気付いた。路の両側に花が咲いていないのだ。

鹿の食害による荒廃に驚く

↑ルリトラノオ(オオバコ科) 鹿による食害でお花畑がひどい状況だとは聞いていたが、聞きしに勝る惨状だ。今の時期、咲き誇っているはずのニッコウキスゲが全く見当たらない。この花も鹿の大好物らしい。

鹿よけの柵に守られた区域の一部だけが、まだお花畑と呼べる姿を保っているが、ここでも花の種類が少ない。

フェンス内外で咲き誇るキオン

鹿フェンスの内外で咲き誇っていたのは鹿が食べないキオン(写真右)。他にトリカブトなど有毒植物が残されていき、植生、生態系に大きな影響を与えているだろう。

なんとしても伊吹山の復元・再生を

前述したように、伊吹山はかけがえのない花の宝庫。かつては織田信長がポルトガル人に命じて多くの薬草を植えさせたとの話があり、近代では牧野富太郎博士がたびたび訪れ、イブキスミレなど75種の命



↑コオニユリ(ユリ科ユリ属)



↓キオン(キク科キオン属)



名を行っている。2003年には山頂草原植物群落が国の天然記念物に指定されている。なんとしても復元・再生を願う。

民間セメント会社の山の掘削もなんとかしてほしい。

帰りのバスからは伊吹山西側斜面の掘削現場が目に入った。民間セメント会社による石灰岩採掘が続いているのだ。私には伊吹山が負わされた重傷の傷口に見える。



↑オオバギボウシ(キジカクシ科ギボウシ属)

↑カワラナデシコ(ナデシコ科) 伊吹山再生のためにはこの山を掘り崩すことも中止させてほしい。

それでも、さすが花の宝庫・伊吹山!!

この日の散策時間は最大3時間、走ったりできない私はバスの発車時刻に遅れないように、早めに駐車場にくんだり、周囲の崖地でも花を写した。この日撮った拙い写真をご紹介します。



↑キリンソウ



↑アカソとクガイソウ(紫色の花)



↑イブキジャコウソウ



←ミヤマコアザミ ↑メタカラコウ ↓琵琶湖 クサフジ→

